

山口県立山口博物館

山口県立山口博物館は、山口県・山口市の官庁施設や中心的な文化施設の集まるパークロード沿いに位置しています。入館者は年間約3万2千人にものぼり、まさに県を代表する施設といえます。

山口博物館では、久しく考古資料の展示が行われていませんでしたが、昨年秋に考古学専門の幸泉満夫学芸員が加入し、今年4月から歴史展示室で考古資料の展示も行われるようになりました。展示室には、県内では珍しい縄文土器を中心に、各時代の土器がわかりやすく展示されています。幸泉学芸員に考古資料の展示について色々とお話をうかがいました。

（質問）考古資料の展示で一番気をつかうことは何ですか？

幸泉「やはり、資料に傷をつけないように気をつけます。また、細心の注意を払った展示を行うことで、観覧者の方々にも文化財の大切さが理解していただけるものと考えています。」

（質問）観覧者からは考古資料の展示についてどのような感想が聞かれますか？

幸泉「展示スペースが少ない、などの声が聞かれます。私としましては、通史的に考古資料の展示が行いたいのですが…。」

現在幸泉学芸員は「遺跡から出土するフグの骨」について研究中だそうです。この研究により、日本人が何時からフグを食べ始めたのかが解明されるかもしれませんね！

山口博物館では9月27日（火）から10月23日（日）にかけて、『古墳時代の山口』というテーマ展が開催されます。また、10月16日（日）には県民を対象とした考古学講座「山口県考古学入門」が開催されます。興味のある方は、是非見学・参加してみましよう！（横山成己）



山口県立山口博物館 考古・歴史展示室



考古担当の幸泉学芸員

お問い合わせ先
山口県立山口博物館
〒753-0073 山口市春日町 8-2
Tel.083-922-0294

2005年春 埋蔵文化財資料館の活動



平川小学校での授業の様子

- 6・7月 6/1(水) 教育学部附属養護学校による展示見学。
11(土) 山口大学山岳部OBによる展示見学。
27(月)
↳ 吉田構内(吉田遺跡)で発掘調査を実施。
29(金)

- 4・5月 5/16(月) 山口市立平川小学校6先生を対象に「考古学と平川地区の遺跡」という内容で出張授業を開催。
17(火) 山口県博物館協会総会に出席・加盟挨拶。
18(水)
↳ 教育学部附属光小学校(御手洗遺跡)で発掘調査を実施。数多くの遺物が出土。
31(火)



吉田遺跡の発掘調査風景

季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信
創刊号
『てらこや埋文』2005 夏

編集・発行
山口大学埋蔵文化財資料館
〒753-8511 山口県山口市大字吉田 1677-1
Tel/Fax 083-933-5035
E-mail yuam@yamaguchi-u.ac.jp

発行年月日 2005.8.1.

てらこや埋文

2005年
夏

『てらこや埋文』創刊にあたって

山口大学埋蔵文化財資料館は、山口大学キャンパスが存在する県内の諸遺跡（山口市：吉田遺跡・白石遺跡 宇部市：山口大学医学部構内遺跡・山口大学工学部構内遺跡 光市：御手洗遺跡・月待山遺跡）の保護を目的として、昭和53年(1978)に設立されました。当館が現在おこなっている業務の具体的な内容としては、

- ①大学の施設整備などで、遺跡が破壊される可能性がある工事が計画された場合、発掘調査などの方法により埋蔵文化財の保護を働きかける
- ②発掘調査の成果から遺跡を調査・研究し、出版物やホームページ上で学内外に広く公表する
- ③発掘調査で出土した遺物（土器や石器など）を中心に、近隣の研究機関や地方自治体と協力し、埋蔵文化財への理解を促進する特色ある展示をおこなう
- ④当館の調査・研究を社会に広く還元するため、市民を対象とした公開授業をおこなう

などが挙げられます。私たちは、このような取り組みをさらに充実させるため、ここに『てらこや埋文』を創刊いたします。

『てらこや埋文』は、一見難しそうに見える「遺跡」や「埋蔵文化財」「考古学」を、より分かりやすく、より面白く読者の皆様にお届けすることをテーマに刊行していこうと考えています。記事の中で面白かったものや逆に難しすぎたものがあれば、埋蔵文化財資料館にドシドシご連絡ください。また、「埋蔵文化財や考古学について知りたいことがある」「〇〇時代の企画展示をしてほしい」「遺跡の発掘調査をしてみたい」などの希望・要望がありましたら、お気軽に当館までご質問ください。

館員一同、心よりお待ちいたしております。

（横山成己）



文字が書かれた須恵器

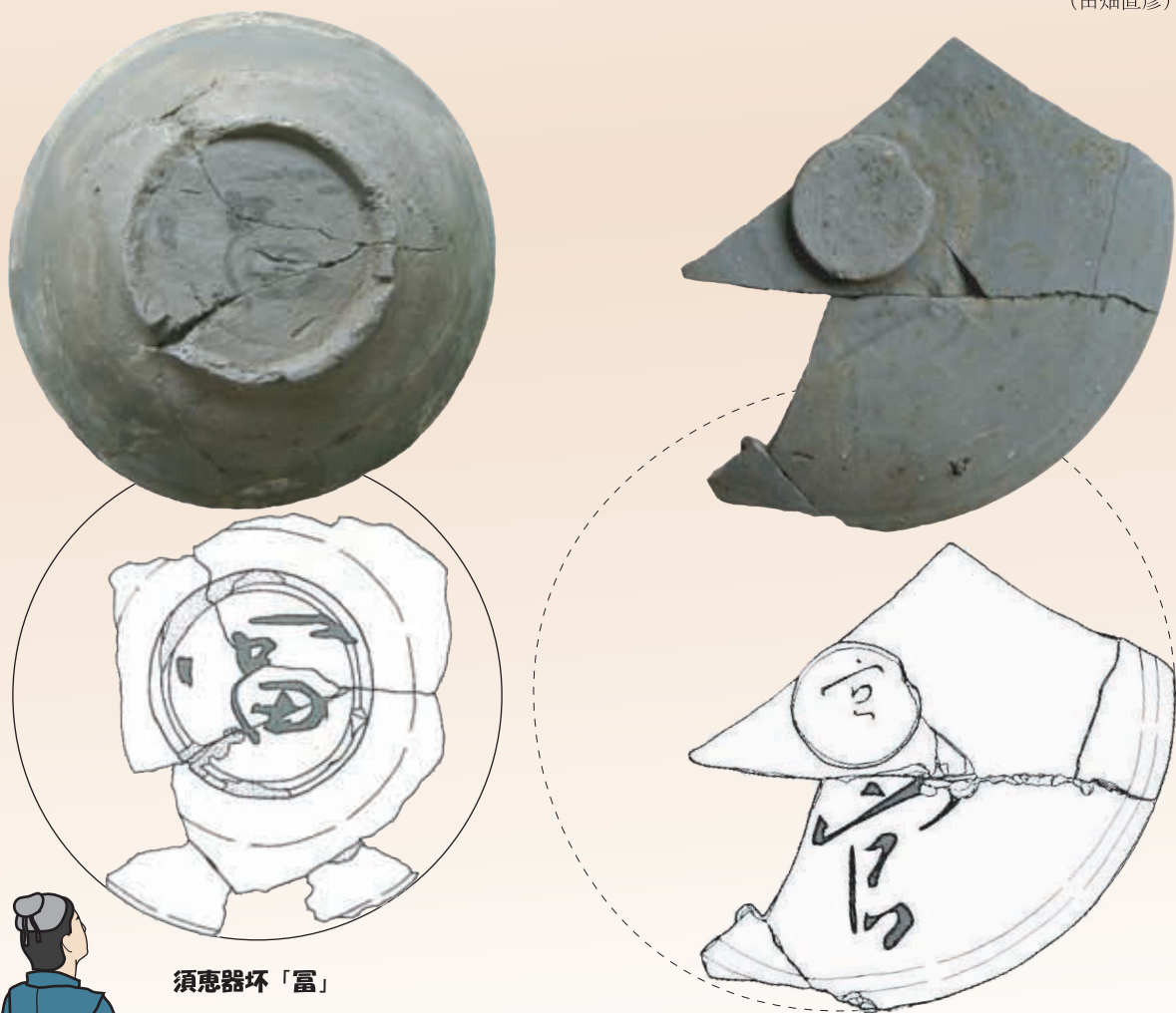
吉田キャンパスでは、墨で文字が書かれた須恵器が2点見つかっています。大学会館の敷地からは、「富」と書かれた須恵器の坏（つき：皿形の容器）、農学部解剖実習棟の敷地からは「官」と書かれた須恵器の蓋が見つかっています。これらは平安時代（9世紀中頃～9世紀末）のもので、地元でつくられたと考えられます。

書かれた文字は何を意味するのでしょうか？ これはなかなか難しい問題ですが、出土した須恵器のうち、文字が書かれているものは極めて少ないので、文字を書くことによって特別な意味を持たせたようです。「富」については、富むことへの願いを込めてお守りにしたか、もしくは、「富」の字で表される人名もしくは地名を書いた可能性があります。「官」については、国の役所や役人、職務を意味するので、いずれかの意味で書かれた可能性があります。

当時、文字を書くことができたのは、役人や僧侶などごく限られた人だけでした。吉田キャンパスでは硯（すずり）のほか、荷札木簡（にふだもっかん：朝廷に税として納める品物に付ける札）、ベルトの飾りである石製の丸柄（まるとも）など、役人が使用したと思われる遺物が見つかることから、何らかの官衙（かんが：古代の役所）が存在したようです。

将来、字が書かれた須恵器や木簡が見つければ、それらに書かれた文字によって、吉田キャンパスにどのような施設があったのか分かるかもしれません。今後の調査に乞うご期待！

（田畑直彦）



須恵器坏「富」

須恵器蓋「官」



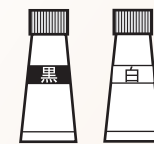
このコーナーでは、多岐にわたる埋蔵文化財の仕事を紹介します。埋蔵文化財の仕事では土を掘る体力も必要ですが、実は正確さ・緻密さが非常に重要で、根気のいる作業が多いのです。今回紹介する埋蔵文化財のお仕事は…

注記（ちゅうき）

注記とは、遺物一つ一つに発掘時の情報を記入することです。

～使用するもの～

ポスターカラー（絵の具）



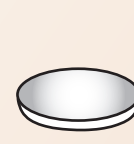
ニス



筆



絵皿



新聞



水入れ



～注記の方法～

1. 新聞を広げ、遺物をその上に出します。
2. 絵皿に絵の具（基本は黒色）を出し、水をつけた筆で字が書ける程度にのばします。
3. 土器片の隅に「遺跡名」と「遺物番号」（この番号でいつ、何処で発掘されたかがわかります）を小さく記入します。
4. 絵の具が乾いたら、保護の為に字の上にニスを塗ります。ニスが乾いたら完成です。

（植木美佳）



こんなに小さく記入するのです！

黒曜石（こくようせき）で石鏃（せきぞく）をつくってみよう



①原石



黒曜石の原石（げんせき）
ここから剥片（はくへん）を取って石鏃を作っていきます

②用意するもの



鹿の角先端部・鹿の角
革の手袋
目を保護するゴーグル

③剥片を取り出す



矢印の部分に鹿の角で軽い打撃を加え、剥片を作ります

④できた剥片



できた剥片です。石鏃の形に近いものを選びましょう

⑤剥片の形を整える



石鏃の形になるように、いろいろな部分を鹿の角で砕きます。今回は白い線い囲まれた部分を砕きました

⑥圧力を加え刃を作る



大まかに石鏃の形を作ったら、黒曜石の出っ張りに鹿の角の先端部を引っかけて矢印の方向に圧力をかけます。すると右の図の赤色の部分が剥げ落ちるので、これを繰り返して刃を作りつつ薄くしていきます

⑦完成品



初めにできた剥片の1/3くらいの大きさになります。慣れるまではなかなかうまくいきません

⑧完成品断面



断面は薄く菱形が平らになるように作ります

（有本浩紀）



縄文時代の弓矢